

科目名	地域と人々の暮らし	単位数	1	時間数	15
講師名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年
科目概要	地域包括ケアシステムにおいては、疾患や障がい（害）があっても、住み慣れた地域でその人らしく暮らす支援が求められている。本科目においては、個人・家族が「地域で暮らす」とはどのようなことなのか。人々の「暮らし」とその基盤となる「地域」について理解する。本科目の目的は、個人・家族の暮らしの多様性や生活環境、地域の理解を深め、その人らしい暮らしに関わる支援を考える力を身につけることである。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域における個人・家族の生活、暮らしを理解する。</li> <li>2. 身近な地域の特性を説明できる。</li> <li>3. 地域、環境が人々の暮らしに及ぼす影響がわかる</li> <li>4. グループワークやプレゼンテーションを行い、理解を深める</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「生活」、「暮らし」とは 生活状況の構造 価値観、健康観、暮らしと健康の関係とは</li> <li>2. 暮らしと地域 地域とは 地域の特性 システムとしての地域 社会資源： フォーマル、インフォーマルサービス</li> <li>3. 家族について 家族の定義</li> <li>4. 地域の特性 地勢・人口動態・歴史・文化・習慣・気質 政治（まちづくりの取り組みなど）・経済 安全・交通・教育・レクリエーション・公園 保健医療福祉サービス・健康問題など</li> </ol>	講義 個人ワーク	1H	専任教員	
	地域特性の発表会、まとめ	発表会	2H		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 身近な地域調査を行い、地域の人々の暮らしを理解する ①地域の観察（茅野市の区を選択し調査） 地域の様子、人口動態、商店街など事前調査</li> <li>②地域マップを作成し、地域の特徴をまとめる</li> <li>③発表</li> <li>④その地域の特徴、課題を見出す</li> </ol>	事前自己学習 グループワーク	4H		
		グループワーク フィールドワーク	5H		
	発表会	2H			
評価方法	プレゼンテーション(10点)、グループワーク(20点)、 4. 地域の特性：レポート(35点) 5. 地域調査：レポート(35点)			1H	
テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版）				
参考文献	基礎からわかる地域・在宅看護論（照林社）				
担当教員からのメッセージ この科目を通じて、皆さんの生活する地域に関心を寄せ、自身も地域の生活者であることを意識してもらえたらと思います。					

科目名	地域・在宅看護論概論	単位数	1	時間数	30
講師名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2年
科目の概要	地域における在宅看護の意義や在宅看護の概念、わが国と諸外国の在宅看護の変遷と現状を理解し、今後の課題と展望がわかる。療養者と家族が社会資源を活用し、在宅での生活が継続できるために必要な知識を学ぶ。保健・医療・福祉の関係職種と協働すること、チームにおける看護の役割がわかる。在宅ケアを支える制度と社会資源がわかる。訪問看護の実際や訪問時の基本的マナーについても学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域における在宅看護の必要性と意義を理解する</li> <li>2. 在宅看護の歴史的変遷を理解する</li> <li>3. 療養者の権利擁護と倫理を理解する</li> <li>4. 在宅看護の対象、在宅ケアを支える制度と社会資源がわかる</li> <li>5. 地域ケアシステムを理解し看護職の役割がわかる</li> <li>6. 在宅看護の今後の課題がわかる</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 地域における在宅看護の意義と必要性 地域・在宅看護の背景	講義 動画	1H	専任教員	
	2. 在宅看護の変遷と現状及び諸外国における在宅看護	講義	1H		
	3. 在宅療養者の権利保障 1) 在宅療養者の権利擁護と倫理	講義・GW	2H		
	4. 在宅看護の対象 1) 在宅療養を必要とする人たち 2) 療養者を介護する家族と家族支援	講義・GW	2H		
	5. 在宅療養を支える看護 1) 在宅看護の目的と機能 2) 在宅療養成立の条件	講義・動画	1H		
	6. 訪問看護の特徴 1) 訪問看護とは 2) 制度による訪問看護活動	講義	1H		
	7. 在宅看護の方法 1) 看護過程 2) フィジカルアセスメント 3) 訪問看護の記録 4) 家庭訪問・初回訪問 5) 訪問看護の基本的マナー	講義・GW 発表	2H 3H 3H		
	8. 在宅ケアの連携とマネジメント 1) 継続看護と退院支援 2) ケアマネジメントと看護 3) 関係職種との連携協働 4) 地域包括ケアシステム	講義	2H		
	9. 在宅ケアを支える制度と社会資源	講義・GW 発表	2H 3H		
10. 在宅看護の今後の動向と課題	講義・GW	3H			
評価方法	筆記試験		1H		
テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術（メディカ出版）				
参考文献	看護学生のための在宅看護論（医学書院）家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編（看護協会出版会）家でのこと 訪問看護で出会う 13 の珠玉の物語（医学書院）だから訪問看護はやめられない（メディカ出版）				
担当教員からのメッセージ 地域包括ケアシステムをはじめとする社会の動向や、人々のニーズに関心を寄せ、在宅看護が地域のシステムの中で成り立っていることを意識しましょう。					

科目名	在宅療養者とその家族の看護	単位数	1	時間数	15
講師名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2年
科目の概要	在宅看護は疾病や障がいを持ちながら、地域で生活している人々とその家族が望んでいる生活や自立した生活を維持・継続できるように看護する。ここでは、基本的な生活援助や、医療処置として褥瘡処置・在宅酸素療法・人工呼吸器管理・胃瘻・カテーテルの管理等の実際を理解する。在宅療養者とその家族の状況をふまえた看護や、在宅における終末期看護について学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養者のヘルスアセスメントの方法がわかる。</li> <li>2. 在宅での療養生活における日常生活行動への支援方法がわかる。</li> <li>3. 在宅における医療処置を必要とする人への援助がわかる。</li> <li>4. 在宅療養者の障がいや状況に応じた看護がわかる。</li> <li>5. 在宅における終末期の対象の看護がわかる。</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 在宅看護技術 1) 在宅看護の技術とは ～訪問看護の実際～	講義 視聴覚教材 演習 グループ ワーク	3H	専任教員	
	2. 在宅に求められる技術 1) 療養者の全身状態の把握 2) 生活環境の維持 3) 基本的な生活行動援助 食生活・排泄・清潔・移動・呼吸への援助		3H		
	3. 在宅における医療処置に伴う援助 1) 感染予防と感染対策 2) 褥瘡 3) 服薬管理 4) 尿道カテーテルの管理 5) 気管カニューレ・在宅人工呼吸器の管理 6) ALS患者のコミュニケーション 7) 医療処置に伴う介護負担		2H		
	4. 緊急時の対応		2H		
	5. 災害時のケア				
	6. 主な障がい、状況にある人とその家族の看護 1) 小児の在宅療養支援 2) 独居生活者の看護 3) 在宅での終末期における対象の看護		3H		
	7. 意思決定支援、アドバンス・ケア・プランニング エンドオブライフケア、グリーフケア				
	8. 在宅における環境設定		1H		
評価方法	筆記試験				1H
テキスト	ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版） ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術（メディカ出版）				
参考文献	在宅看護技術（メチカルフレンド社） 家族看護を基盤とした在宅看護論Ⅰ 概論編（看護協会出版会）				
担当教員からのメッセージ 疾患や障がいを持ちながら地域で生活している人と、その家族が望んでいる生活とは何かをイメージし、その人らしい生活を支える看護を考えていきましょう。					

科目名	在宅看護技術	単位数	1	時間数	15
講師名	専任教員	実務経験	有	履修年次	3年
科目の概要	訪問看護に必要な看護技術について学ぶ。看護の場が家庭であることから、家庭にあるものを創意工夫しながら大切に扱うことや、介護援助用品や福祉用具の目的と活用方法を理解する。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅での必要な日常生活援助がわかり創意工夫ができる</li> <li>2. 介護用品、生活援助器具の目的・種類と活用方法がわかる</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅での必要な日常生活援助がわかり創意工夫できる                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事例をもとに看護を考え工夫を考え、実施する。</li> <li>2) 訪問看護のロールプレイ 訪問看護の計画立案 利用者、家族への対応を考える 振り返り</li> </ol> </li> <li>2. 在宅での清潔援助技術 在宅にある物品を使用しての排泄援助、 陰部洗浄、</li> </ol>	講義 GW 演習   GW 演習	1H 6H 3H   1H 1H	専任教員	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 介護用品、生活援助器具の目的・種類と活用方法がわかる</li> </ol>		1H		
評価方法	筆記試験				1H
テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養支える技術（メディカ出版）				
参考文献	在宅看護技術 メチカルフレンド社				
担当教員からのメッセージ 在宅看護では家庭の物品を活用しケアするので、豊かな発想と創意工夫が必要になります。今までの基本的看護技術と、自身の生活について改めて考え、振り返ってみてください。					

科目名	在宅療養者の事例展開	単位数	1	時間数	15
講師名	専任教員	実務経験	有	履修年次	3年
科目の概要	筋萎縮性側索硬化症の事例を用い、訪問看護計画立案を通して難病をもつ在宅療養者とその家族の看護を学ぶ。療養者とその家族のQOL維持向上への看護とは何かを考える。ケースを通じて、社会資源の活用方法や多職種連携および看護師の役割を理解する。 これまでの授業で学んだ知識と実習で培った学びを活かし、療養者やその家族を理解し、必要なケアを考える。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 難病を抱える療養者とその家族を理解できる</li> <li>2. 筋萎縮性側索硬化症についての病態が理解できる</li> <li>3. 人工呼吸器装着に関する療養者とその家族への支援がわかる</li> <li>4. 在宅での療養生活を支える社会資源について理解できる</li> <li>5. 事例の訪問看護が立案できる</li> <li>6. 学んだことを発表し、共有を通して看護を深めることができる</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 難病を抱えて闘病する療養者と家族をイメージする	視聴覚教材	2H	専任教員	
	2. 筋萎縮性側索硬化症の基礎的理解 1) 運動神経系の解剖生理 2) 筋萎縮性側索硬化症の病態・治療・看護 3) 在宅での人工呼吸器の管理	事前学習ノート の提出	3H		
	3. 難病対策の概要、医療保障、障害者総合支援法、医療制度、社会資源について	個人学習			
	4. 事例の訪問計画を立案する	グループワーク	6H		
		発表・質疑応答 まとめ	3H		
筆記試験		1H			
評価方法	①看護過程（個人） 10点 ②訪問看護計画（グループ） 10点 ③筆記試験 80点				
テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術（メディカ出版）				
参考文献	訪問看護研修テキスト7 難病患者の看護； 日本看護協会 関係法規； 医学書院 社会福祉； 医学書院 難病スターティングガイド；看護協会出版会 桐書房 ナーシングアプローチ；中山優季 川村佐和子 難病看護の基礎と実践 川口有美子 逝かない身体 ALS的日常を生きる； 医学書院 橋本操 マドンナの首飾り 中央法規 <DVD> 「こんな夜更けにバナナかよ（北海道新聞社・映画）				
担当教員からのメッセージ	これまで学んだ知識と実習で培った学びをいかしましょう。グループメンバーとの討議や発表会の共有を通して、皆さん一人ひとりの看護を深められることを願っています。				

科目名	多職種連携・協働	単位数	1	時間数	15
講師名	専任教員	実務経験	有	履修年次	3年
科目概要	地域包括ケアシステムにおいては、多職種が連携・協働しながら役割を遂行することが求められている。多職種の学生と同等の立場で、フランクに話し合い・学びあう機会を通して、互いの専門性を理解し、協働の仕方を学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多職種の役割・責務を理解する</li> <li>2. 多職種間のコミュニケーション能力を身につける</li> <li>3. 多職種で対象志向の目標を共有する</li> <li>4. 対象者の目標達成・ケアの質向上に向けて共に考える</li> <li>5. 多職種連携・協働に向けての展望を共に語る</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 多職種の役割、連携・協働の必要性について</li> <li>2) 事例提示、レポート評価について</li> <li>3) 自己紹介の資料作成</li> </ol> </li> <li>2. 看護師の役割と責務を理解する                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護師の役割と責務についてまとめる</li> </ol> </li> </ol>	講義 個人学習 グループワーク	2H	専任教員	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 事例患者の目標・ケアを考える                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事例患者のアセスメント</li> <li>2) 看護上の問題点を作成</li> </ol> </li> </ol>	グループ学習	2H		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>3) Zoomの使い方                              グーグルスライド、共有画面、                              ブレイクアウトルーム</li> </ol>	Zoom グループワーク	1H		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>4) 他職種学生とディスカッションをする                             <ol style="list-style-type: none"> <li>①自己紹介</li> <li>②自職の役割と責務</li> <li>③アセスメント・問題点・目標の意見交換</li> </ol> </li> </ol>	Zoom グループワーク	2H		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>④事例患者の目標・具体策について                              チームディスカッション</li> <li>⑤発表資料作成</li> </ol>	Zoom グループワーク	2H		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>⑥発表、学びの共有</li> </ol>	Zoom 発表・質疑応答	2H		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 病院職員との事例検討会</li> </ol>	グループワーク 発表・質疑応答	4H		
評価方法	レポート				
テキスト					
参考文献	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養支える技術（メディカ出版） 看護学概論、よくわかる看護職の倫理綱領				
担当教員からのメッセージ	理学療法士の学生との協働学習を通し、理学療法士の専門性や理学療法士とコミュニケーションを図るためのツールについて体験的に学びましょう。				